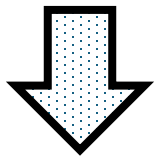
資料4－1

定量的な評価指標の設定について

令和8年11月2日
令和8年度第5回青森県地域医療対策協議会事務局
（青森県健康医療福祉部医療薬務課）

本日のご説明の主旨及び対応状況

【主旨】
　青森県医師確保計画（第8次後期）の策定・検討にあたり、医師確保計画ガイドライン～第8次後期～において、当該計画の現状を経時的に把握・評価することを可能とするため、定量的な評価指標を定め、計画に記載することとなっていることから、前回の協議内容を踏まえた評価指標の設定について検討を行うもの。



【対応状況】
　今年度、青森県医師確保計画（第8次計画。令和5年度策定、令和6～11年度適用）について、前期計画（令和6～8年度適用）の中間見直しを行い、後期計画（令和9～11年度適用）の策定を行うこととしており、令和8年7月27日に開催した令和8年度第3回地域医療対策協議会において、**医師確保計画に設定する定量的な評価指標は、国が提示した指標から選定する**こととした。

定量的な評価指標の設定の考え方

① 県全体の医師の確保（医師数の確保）
② 県内の地域偏在の解消（地域間偏在の是正）
③ 県内での必要な診療科の確保（診療科偏在の是正）

の3つの課題について、各指標が県の取組の現状を経時的に把握・評価できるものであるか検討する。

都道府県の課題	区分	設定すべき評価指標	取得頻度	取得方法
・都道府県全体の医師の確保 ①	・医師養成の動向	・自県大学や、自県出身者の動向（自県大学卒業医師数、地元出身医師数等）	2年に１回	三師統計
		・臨床研修修了後の医師等の定着状況	年1回	都道府県調査
	・地域枠医師	・地域枠、地元出身者枠、恒久定員内地域枠等の設置状況	年1回	都道府県調査
		・地域枠等の義務年限後の定着状況		都道府県調査
・都道府県内の地域偏在の解消 ②	・医師少数区域、医師少数都道府県の動向	・二次医療圏別の医師数　（年代別、人口・可住地面積あたり）	2年に1回	三師統計
		・二次医療圏内外の患者の流出入数	3年に1回	患者調査
		・ドクターバンク・全国マッチング登録者数		事業者等より取得
		・新たに確保した医師の採用経緯（医局派遣、人材紹介会社等）の内訳		都道府県調査
	・医師少数スポット、重点医師偏在対策支援区域の動向	・医師少数スポットの医師数（年代別、人口・可住地面積あたり）	年1回	都道府県調査
		・重点医師偏在対策支援区域の医師数	年1回	都道府県調査
	・医師派遣調整	・地域医療対策協議会で調整された、医師少数区域等に派遣された医師総数・地域枠医師数とその割合	年1回	都道府県調査
・都道府県内での必要な診療科の確保 ③	・総合診療	・総合診療専門医の養成に係る状況（専門研修プログラム数、採用人数、充足率等）	年1回	都道府県調査
		・リカレント教育受講者数、都道府県による管内への周知回数		事業者より取得、都道府県調査
	・地域で不足する診療科	・地域で不足する特定診療科について、二次医療圏別医師数	2年に1回	三師統計

①　県全体の医師の確保（医師数の確保）

①　県全体の医師の確保（医師数の確保）について、目標医師数の達成のための以下の取組に対し、次頁以降の指標が本県の取組の現状を経時的に把握・評価できるものであるか検討する。

1. 県の取組

弘前大学地域枠医師の確保	地域枠恒久定員・臨時定員の設定
中高生に向けた取組	医師応援サイト「医ノ森aomori」運営　医療チュートリアル体験授業　外科手術セミナー　ドクタートーク 弘前大学オープンキャンパス　スタディーツアー
医学生に向けた取組	医学部入学生、新5年生と知事との懇談会　地域医療早期体験実習
県内医学生に対する修学資金の貸与	弘前大学医師修学資金支援事業
県外医学生に対する修学資金の貸与	青森県医師修学資金貸付事業
若手医師のキャリア形成支援	青森県キャリア形成プログラムの策定
若手医師の県内定着推進	医師相談窓口の設置　臨床研修医ワークショップ　指導医ワークショップ　院内保育所運営費補助
UIJターン医師の確保	地域医療支援センターによる無料職業相談所の運営　良医育成支援特別顧問の委嘱 良医育成支援特別推進員の委嘱

2. 目標医師数・必要医師数

〈前回（R4年時点）〉

医師偏在指標		医療施設従事医師数（2022年）	目標医師数（2026年）	必要医師数（2036年）
184.3	医師少数県	2,651	**2,972**	3,318

（単位：人）

〈今回（R6年時点）〉

医師偏在指標		医療施設従事医師数（2024年）	目標医師数（2029年）	必要医師数（2036年）
194.4	医師少数県	2,612	**3,033**	3,348

（単位：人）

① 県全体の医師の確保（医師数の確保）（事務局案）

区分	設定すべき評価指標	現状値	出典	指標の採否	理由
医師養成の動向	自県大学や、自県出身者の動向（自県大学卒業医師数、地元出身医師数）	112人	医籍登録後3～5年目医師の動向（国資料）	○	県内医療機関に勤務する医師数の増減に及ぼす影響が大きいと考えられ、本県の医師確保に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であるため。
	臨床研修修了後の医師等の定着状況	67人	例年の臨床研修修了者数の公表	○	
地域枠医師等の動向	地域枠、地元出身者枠、恒久定員内地域枠等の設置状況	65～6人	弘前大学地域枠、東北医科薬科大学青森県A枠、自治医科大学（青森県枠）	○	
	地域枠等の義務年限後の定着状況	―	―	○	

【医師養成の動向】＜資料4－2を参照＞

・ 自県大学に入学する自県出身者が増加すれば、自県医療機関に勤務する医師数の増加につながるものと考えられ、本県の医師確保に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であると考えられることから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**

・ また、県内の基幹型臨床研修病院で臨床研修を修了後、引き続き県内の医療機関で勤務している医師数については、自県出身者の自県大学入学者数と連動して、県内医療機関に勤務する医師数の増減に及ぼす影響が大きい指標と考えられることから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**

【地域枠医師等の動向】＜資料4－2を参照＞

・ 地域枠等の設置状況について、本県においては平成26年以降、地域枠募集定員の変化はないものの、地域枠医師数の動向等を経時的に把握・評価できる指標であると考えられるため、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**

・ また、地域枠等の義務年限後の定着状況について、地域枠医師数の動向等を経時的に把握・評価できる指標であり、今後、医ノ森aomoriキャリア形成支援システム等により、義務年限後の地域枠医師の動向を把握することとしていることから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**

② 県内の地域偏在の解消(地域間偏在の是正)

② 県内の地域偏在の解消(地域間偏在の是正)について、目標医師数の達成のための以下の取組に対し、次頁以降の指標が本県の取組の現状を経時的に把握・評価できるものであるか検討する。

1. 県の取組

県内医学生に対する修学資金の貸与	弘前大学医師修学資金支援事業
県外医学生に対する修学資金の貸与	青森県医師修学資金貸付事業
若手医師のキャリア形成支援	青森県キャリア形成プログラムの策定
医師偏在是正プラン	診療所の承継・開業支援事業費補助 医師派遣元医療機関支援事業事業費補助 医師の勤務・生活環境改善のための代替医師確保支援事業費補助 医師の勤務・生活環境改善のための施設整備事業費補助

2. 目標医師数・必要医師数

医療圏	区分	医療施設従事医師数（2024年）	本計画で定める目標医師数（2029年）	必要医師数（2036年）
青森県	医師少数県	2,612	3,033	3,348
津軽地域	医師多数区域	877	877	843
八戸地域	医師少数区域	613	749	882
青森地域	医師少数区域	611	729	841
西北五地域	医師少数区域	170	204	226
上十三地域	医師少数区域	215	348	408
下北地域	医師少数区域	106	126	136

（2029年）3,033人
（2036年）3,348人

（2029年）2,156人
（2036年）2,493人

（単位:人）

② 県内の地域偏在の解消（地域間偏在の是正）（事務局案）

区分	設定すべき評価指標	現状値	出典	指標の採否	理由
医師少数区域、医師少数都道府県の動向	二次医療圏別の医師数（年代別、人口・可住地面積あたり）	資料4-2のとおり	・三師統計 ・医師偏在指標（令和8年4月公表） ・重点医師偏在対策支援区域候補区域参考データ（第8次後期）	○	既に評価指標で用いられており、本県の地域偏在解消に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であるため
	二次医療圏内外の患者の流出入数				
	ドクターバンク・全国マッチング登録者数	―	―	×	現状把握が困難
	新たに確保した医師の採用経緯（医局派遣、人材紹介会社等）の内訳				
医師少数スポット、重点医師偏在対策支援区域の動向	医師少数スポットの医師数（年代別、人口・可住地面積あたり）	資料4-2のとおり	三師統計	○	既に評価指標で用いられており、本県の地域偏在解消に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であるため
	重点医師偏在対策支援区域の医師数			○	
医師派遣調整	地域医療対策協議会で調整された、医師少数区域等に派遣された医師総数・地域枠医師数とその割合	14人	青森県国民健康保険団体連合会調査	○	医師派遣の状況は地域間偏在の是正に直結すると考えられ、本県の地域偏在解消に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であるため

医師少数スポットの年代別医師数は現状把握が困難

【医師少数区域、医師少数都道府県の動向】
- 本計画の目標として、二次医療圏別の人口10万対医師数に基づく目標医師数を設定し、患者の流出入数を算出方法に含む医師偏在指標を基に地域偏在解消に向けた取組を行っており、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**また、**年代別、可住地面積あたりの二次医療圏別の医師数**も把握できることから、経時的に把握・評価できる**定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**
- ドクターバンク・全国マッチング登録者数、新たに採用した医師の採用経緯の医局派遣以外の内訳については、本県の地域偏在解消に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として有用であるが、現状値を把握することが困難なため、今後、現状値を把握することに努め、**本計画の定量的な評価指標として採り入れないこととしたい。**

【医師少数スポット、重点医師偏在対策支援区域の動向】
- 医師少数スポットの医師数・人口10万対医師数、可住地面積あたりの医師数及び重点医師偏在対策支援区域の医師数は、既に本計画で用いられている。又は把握可能であることから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**なお、医師少数スポットの年代別医師数は現状値の把握が困難なため、**採り入れないこととしたい。**

【医師派遣調整】
- 医師少数区域等で勤務する医師数が増加し、地域間偏在の是正に資すると考えられるため、 経時的に把握・評価できる**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**

③ 県内での必要な診療科の確保（診療科偏在の是正）

③ 県内での必要な診療科の確保（診療科偏在の是正）について、目標医師数の達成のための以下の取組に対し、次頁以降の指標が本県の取組の現状を経時的に把握・評価できるものであるか検討する。

1. 県の取組

寄附講座の設置等	周産期専門医確保対策 障害児者医療従事者確保対策 地域循環型良医育成システム構築対策 脳神経外科専門医確保対策
地域総合診療センターの設置等	総合的な診療能力・マインドを持つ医師育成推進事業（地域総合診療センター） 総合診療医育成支援アドバイザーの招へい

③ 県内での必要な診療科の確保（診療科偏在の是正）（事務局案）

区分	設定すべき評価指標	現状値	出典	指標の採否	理由
総合診療	総合診療専門医の養成に係る状況 （専門研修プログラム数、採用人数、充足率等）	専門研修プログラム数 6医療機関 養成数 32人 （H30～R8累計）	都道府県調査	↙○	総合診療専門医の養成は診療科偏在の是正に資するものと考えられ、本県の診療科偏在是正に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であるため
	リカレント教育受講者数、都道府県による管内への周知回数	―	―	×	現状把握が困難で、実施中の取組がないため
不足する診療科	地域で不足する特定診療科について、二次医療圏別医師数	―	―	×	本県は診療科を問わず全体としての医師確保を進めており、また、診療科ごとの必要医師数が不明なため

総合診療専門医の充足率は現状把握が困難

【総合診療の動向】＜資料4－2を参照＞
- 総合診療医の養成は、診療科偏在の是正に資するものと考えられ、本県の診療科偏在の是正に向けた取組の現状を経時的に把握・評価できる指標として適当であると考えられることから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れることとしたい。**
- リカレント教育受講者数や都道府県による管内への周知回数については、現状値を把握することが困難であり、本県はリカレント教育に関する事業を現時点で実施していないことから、今回は**本計画の定量的な評価指標として採り入れない**ものの、今後、現状値を把握し、リカレント教育の取組を進めていく必要がある。

【不足する診療科の動向】＜資料4－2を参照＞
- 本県は診療科を問わず全体としての医師確保を進めており、また、診療科別医師偏在指標の算出が現時点では困難とされ、診療科ごとの必要医師数が不明なことから、**本計画の定量的な評価指標として採り入れないこととしたい。**今後、キャリア形成プログラム適用医師については三者協定での協議や医ノ森aomoriキャリア形成支援システム等を通じて勤務先や選択診療科の把握に努める。

定量的な評価指標の設定（全体）（事務局案）

全体として、以下のとおり評価指標を設定することとしたい。

都道府県の課題	区分	設定すべき評価指標	現状値	出典	指標の採否
都道府県全体の医師の確保	医師養成の動向	自県大学や、自県出身者の動向 （自県大学卒業医師数、地元出身医師数）	112人	医籍登録後3～5年目医師の動向（国資料）	○
		臨床研修修了後の医師等の定着状況	67人	例年の臨床研修修了者数の公表	○
	地域枠医師等の動向	地域枠、地元出身者枠、恒久定員内地域枠等の設置状況	65～66人	―	○
		地域枠等の義務年限後の定着状況	―	―	○
都道府県内の地域偏在の解消	医師少数区域、医師少数都道府県の動向	二次医療圏別の医師数 （年代別、人口・可住地面積あたり）	資料4－2 のとおり	・三師統計 ・医師偏在指標（令和8年4月公表） ・重点医師偏在対策支援区域候補区域参考データ（第8次後期）	○
		二次医療圏内外の患者の流出入数			
		~~ドクターバンク・全国マッチング登録者数~~	―	―	×
		~~新たに確保した医師の採用経緯 （医局派遣、人材紹介会社等）の内訳~~			
	医師少数スポット、重点医師偏在対策支援区域の動向	医師少数スポットの医師数 （~~年代別、~~人口・可住地面積あたり）	資料4－2 のとおり	三師統計	○ （年代別医師数の把握が困難）
		重点医師偏在対策支援区域の医師数			○
	医師派遣調整	地域医療対策協議会で調整された、医師少数区域等に派遣された医師総数・地域枠医師数とその割合	14人	青森県国民健康保険団体連合会調査	○
都道府県内での必要な診療科の確保	総合診療	総合診療専門医の養成に係る状況 （専門研修プログラム数、採用人数、~~充足率等~~）	専門研修プログラム数：6 養成数：32人（累計）	都道府県調査	○ （充足率の把握が困難）
		~~リカレント教育受講者数、都道府県による管内への周知回数~~	―	―	×
	不足する診療科	~~地域で不足する特定診療科について、二次医療圏別医師数~~	―	―	×

医師確保計画の定量的な評価指標の設定

具体の記載内容については次回の地域医療対策協議会「医師確保計画（第8次後期）素案」をお示しします。